

KOSEN の窓

昨年4月に発生した熊本地震から1年がたちました。熊本県下では、今なお4万人を超える人々が仮設住宅など、自宅以外の住まいで生活されています。

本校では、建築学科の学生を中心に「KASEIプロジェクト」に参加し、応急仮設住宅の環境改善活動を行ってきました。「KASEIプロジェクト」は、九州建築学生仮設住宅環境改善プ

ロジエクトの略称。仮設住宅でのコミュニティの構築や住環境の改善を「ものづくり」と「こづくり」画面から支援することを目的に、九州・山口を中心に20の大学・高専が参加しています。2月には「収納スペー

熊本地震で応急仮設住宅における有明高専の取り組み

有明高専創造工学科助教

藤原 ひとみ

本校は、熊本県立大学と合同で熊本県益城町にあるテクノ仮設団地で活動を行っています。これまで、集会施設「みんなの家」の上棟式や落成式ワークショップなど住民参加型イベントの開催を行

つきました。活動は一方的にならないようにとの思いから、イベントなどで住民の方へヒアリングを行い、そこから要望の多かったものを中心に企画実施をしています。

「スがなくて困っている」という声を受けて、家具づくりのワークショップを企画しました。ワークショップでは「組手仕」という家具製作キットを使い、収納したいものや家具を置きたい場所の大きさに合わせた家具を作りました。当日は40世帯を超える住民の参加があり、学生と一緒に家具を作りました。家具作成に当たっては、学生が実際に住宅を訪問させていただいてヒアリングや採寸を実施。設計図を作成し部材を必要な大きさにカット、組み立てを一緒に行いました。要望に合わせた作り手の難しさの体験はもちろん、被災された方のお話を伺ったり、仮設住宅を見学させていただいたことは、学生にとって貴重な学びの場にもなったようです。

今後の活動に関しても、向けて、住民の方々と一緒に考えていけたらと思います。(不定期掲載)



家具作成ワークショップの様子

有明高専